

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成30年5月
鹿児島市（鹿児島県）

全体総括

○計画期間：平成25年4月～平成30年3月（5年）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

2期計画では、「街なかのにぎわい創出と回遊性の向上」「都市型観光の振興」「商業・業務機能の集積促進」の3つの目標を掲げ、新幹線効果を持続・拡大させ、交流人口のさらなる増大を図るため、当初の59事業から28事業を追加し、計87事業を計画事業として位置づけ、目標達成に取り組んできた。

鹿児島中央駅地区では、大型商業施設の増床、新市立病院の建設、都市の杜の整備など都市機能の集積が進んだほか、いづろ・天文館地区では、1期計画で未着手事業となっていた照国表参道商店街ショッピングモール化事業が完了するなど、アーケードの新設や改修により、来街者の利便性や快適性の向上に寄与した。また、上町・ウォーターフロント地区では、低未利用地となっていた旧国鉄用地に「かんまちあ」（上町ふれあい広場、上町の杜公園）を整備し、市民・観光客の憩いの場として親しまれている。

その他、新たな大型イベント等のソフト事業も官民一体となって展開したことで、年間入込観光客数は着実に増加し、歩行者通行量も鹿児島中央駅地区で増加傾向にある。

中心市街地への来街者や市民を対象に実施したアンケート調査では、5年前と比べ中心市街地の活気が増している、どちらかといえば増していると感じている人の割合が多いなど、中心市街地活性化の取組には、一定の評価が得られている。

一方、市街地再開発事業など一部事業で完了時期が延期になったことで、事業効果が十分に発現されなかった面もあり、目標指標に掲げた歩行者通行量と第三次産業の従業者数は目標値に達しなかった。また、近年の中心市街地外への大型商業施設の増加やネット通販の影響などにより、この10年間で、小売店舗数は減少し、小売業年間商品販売額は伸び悩み、空き店舗率は一旦改善したものの増加傾向にあるなど、本市の経済活動の中心的役割を担う中心市街地を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあり、引き続き賑わいあふれるまちづくりを進める必要がある。

【中心市街地の状況に関する基本的なデータ】

(単位:人)

(中心市街地 区域内)	24年度(計画期 間開始前年度)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(計 画最終年度)
人口	30,247	30,938	31,549	31,634	31,726	31,810
人口増減数	515	691	611	85	92	84
社会増減数	499	400	117	△3	18	67
転入者数	2,221	2,393	2,083	1,984	2,047	1,998

※人口は各年度4月1日現在。

**2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか(個別指標
毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断)**

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
 ②若干の活性化が図られた
 ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
 ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

計画に掲載した19事業が完了し、87事業全てを実施するなど、概ね順調に進捗・完了したと考えている。大型事業である中央町19・20番街区市街地再開発事業及び東千石町12番街区整備事業の完了時期が延期になるなど、事業効果が当初の見込み通りに発現されなかった事業があったものの、新たな冬の大規模なイベントである天文館ミリオネーションや本市の魅力を体感できる鹿児島マラソンなどのイベント事業、民間団体が実施するイベントへの支援事業である観光イベント創出支援事業等を計画に追加し実施した。中心市街地の入込観光客数及び宿泊観光客数は、23年に急増し、その後も増加傾向が続いている(入込観光客数:23年7,762千人→28年7,981千人、宿泊観光客数:23年2,649千人→28年2,953千人)。特に、宿泊観光客数のうち外国人宿泊観光客数は、近年急増しており、都市型観光の推進と交流人口の増大による街なかの賑わい創出が図られたと考えている。

一方、小売店舗数は、1,568店舗(21年)から1,413店舗(26年)に減少し、市全体に占める中心市街地の割合も微減傾向にあるとともに、小売業年間商品販売額も、1,823億円(19年)から1,772億円(26年)に減少している。また、空き店舗率は、12.1%(19年度)から7.6%(24年度)と一旦改善したものの、近年は増加傾向にあり、28年度は9.2%となるなど、厳しさが増している。

中心市街地に対する市民等の意識については、29年度に中心市街地の商業者、中心市街地への来街者及び市政に関する意見などを寄せていただく市民であるまちかどコメンテーターを対象に、5年前と比べた中心市街地の様子について調査を行った。中心市街地のにぎわい（人通りや活気）がどうなったと思うか尋ねたところ、「活気が増している・どちらかといえば活気が増している」と答えた割合は、商業者が31.6%、来街者が44.3%、まちかどコメンテーターが53.9%であった。また、商業面での魅力について、商業者、まちかどコメンテーターを対象に調査したところ、「魅力が向上した・どちらかという魅力が向上した」と答えた割合は、商業者が39.3%、まちかどコメンテーターが50.3%であった。観光面での魅力については、まちかどコメンテーターを対象に調査し、「魅力が向上した・どちらかという魅力が向上した」と答えた割合は59.8%となるなど、中心市街地のにぎわいや魅力が増していると感じている人が一定割合いることがうかがえた。

その他、市全体で人口が減少傾向にある中、中心市街地の居住人口は、増加傾向が続いており、居住人口、世帯数共に、市全体に占める中心市街地の割合も増加傾向にある。公示地価についても県全体で下落が続く中、鹿児島中央駅地区では上昇が続いていることなどから、中心市街地は一定の活性化が図られたと考えている。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

第2期鹿児島市中心市街地活性化基本計画では、平成23年3月に全線開業した九州新幹線の効果を持続・拡大させるため、「観光」「商業」「交流」をキーワードに、3つの目標数値を掲げ、にぎわいあるまちづくりを目指し、各種施策に鋭意取り組んできた。平成25年4月～平成30年3月までの第2期計画の実施期間中には、当初からの59事業に28事業を加えた計87事業を計画実施した。各事業とも事業実施者のご尽力により中心市街地の活性化に向けて概ね順調に遂行されている。

一方、本市の中心市街地の活性化状況を見ると、鹿児島市が行った第2期計画に掲げた3つの数値目標の最終フォローアップ結果では、目標指標を定めた「中心市街地の年間入込観光客数」と「第3次産業従事者数」の2つは前回調査時よりも改善されたものの、目標の達成には至っていない。また「歩行者・自転車通行量」についても、調査報告によると地域によってバラツキや濃淡が生じている。

鹿児島中央駅地区は、駅ビルの増床計画などの第2期中活計画の推進により、歩行者・自転車通行量が増加するなど各事業の波及効果が表れているエリアであるが、上町地区においては、依

然厳しい状況にあり、直接的な効果は表れていない。さらに、いづろ・天文館地区についても、地元商店街などでは数多くのイベントを実施されており、これから大規模な再開発の計画もあるが、同地区の歩行者・自転車通行量の減少や空き店舗数が増加していることを踏まえると現時点では活性化されているとは言えず、更なる取組みを強化する必要がある。

当協議会としては、第3期計画に掲げられた目標の達成と今後のまちづくりの推進にあたり、民間の意見をより多く採り入れていただけるようにフレキシブルな対応をお願いするとともに、将来的な人口動態の変化等も鑑み、中心市街地における民間投資を促進するための規制緩和に向け積極的に要望していく。また、民間と行政が連携・協働して各種施策・制度の情報を共有し、民間主導によるにぎわい創出の取組が積極的に進められることを望む。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

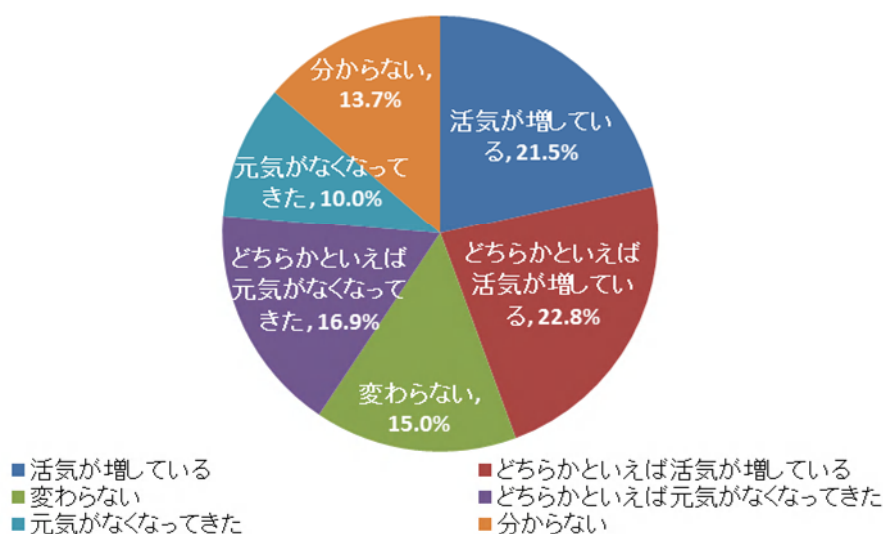
【詳細を記載】

(1) 平成29年度鹿児島市中心市街地来街者の回遊性・満足度調査

【調査概要】

- 調査日：平成29年11月1日（水）、5日（日）の2日間
- 調査時間：10時30分～18時30分の8時間
- 調査地点：いづろ・天文館地区（5地点）、鹿児島中央駅地区（5地点）、上町・ウォーターフロント地区（4地点）の計14地点
- 調査方法：街頭での聞き取り調査
- 対象者：高校生以上の来街者（観光客を含む。）
- サンプル数：800人（男性323人、女性476人、未回答1人）

Q10 にぎわい(5年前と比べて)(N=692)



・「活気が増している」、「どちらかといえば活気が増している」の合計（A）は44.3%、「元気がなくなってきた」、「どちらかといえば元気がなくなってきた」の合計（B）は26.9%であり、AからBを差し引いた値は17.4ポイントと5年前と比べて中心市街地のにぎわいが増していると感じている人の方が多い。

(2) まちかどコメンテーターアンケート調査

【調査概要】

➤調査期間：平成29年6月30日（金）～7月24日（月）

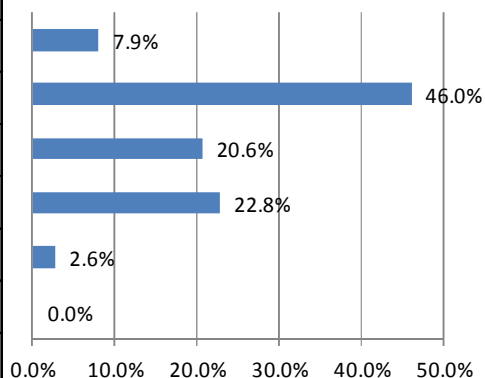
➤調査方法：下記対象者への送付調査

➤対象者：住民基本台帳から無作為抽出した市民2,500人にまちかどコメンテーターへの就任を依頼し、承諾いただいた方と、一般公募に応募していただいた方。

➤サンプル数：205人（男性97人、女性108人）

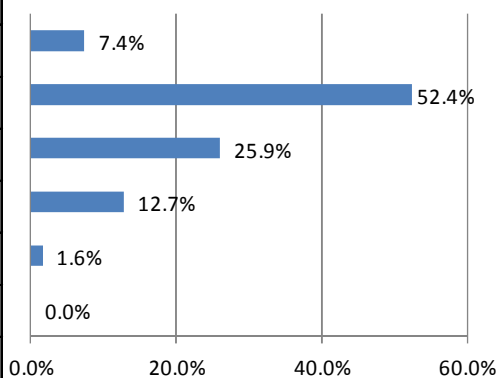
(1) いづろ・天文館地区、鹿児島中央駅地区、上町・ウォーターフロント地区といった中心市街地のにぎわい（人通りや活気）は、5年前と比べてどうなったと思いますか。

選択肢	回答数	構成比
①活気が増している	15	7.9%
②どちらかといえば活気が増している	87	46.0%
③変わらない	39	20.6%
④どちらかといえば元気がなくなってきた	43	22.8%
⑤元気がなくなってきた	5	2.6%
無回答	0	0.0%
合計	189	100.0%



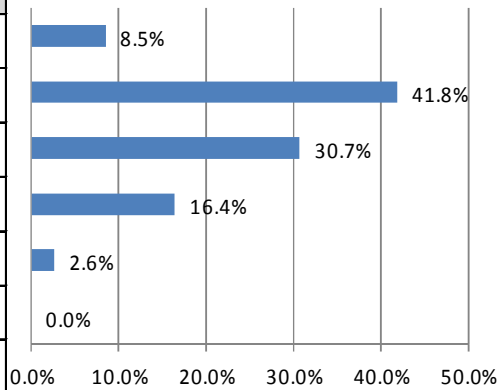
(2) 中心市街地の観光面（観光施設、観光イベント、おもてなし等）での魅力は、5年前と比べてどうなったと思いますか。

選択肢	回答数	構成比
①魅力が向上した	14	7.4%
②どちらかといえば魅力が向上した	99	52.4%
③変わらない	49	25.9%
④どちらかといえば魅力が低下した	24	12.7%
⑤魅力が低下した	3	1.6%
無回答	0	0.0%
合計	189	100.0%



(3) 中心市街地の商業面での魅力（商業施設、商店街イベント等）は、5年前と比べてどうなったと思いますか。

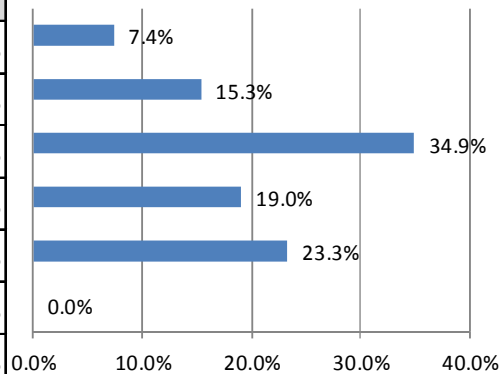
選択肢	回答数	構成比
①魅力が向上した	16	8.5%
②どちらかといえば魅力が向上した	79	41.8%
③変わらない	58	30.7%
④どちらかといえば魅力が低下した	31	16.4%
⑤魅力が低下した	5	2.6%
無回答	0	0.0%
合計	189	100.0%



- ・ (1)～(3)の①と②の各合計 (A) はそれぞれ 53.9%、59.8%、50.3%であり、④と⑤の各合計 (B) はそれぞれ 25.4%、14.3%、19.0%である。
A から B を差し引いた値は、それぞれ 28.5 ポイント、45.5 ポイント、31.3 ポイントと 5 年前と比べて中心市街地のにぎわいが増していると感じている人の方が多い。

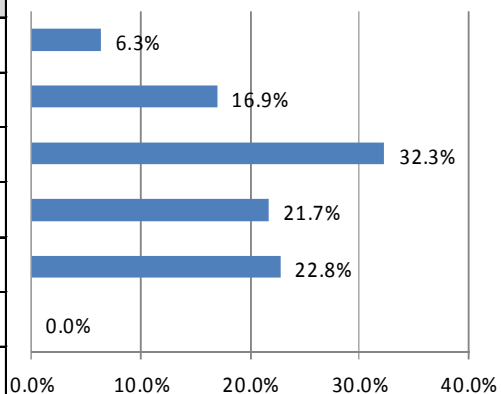
(4) 平日、中心市街地に出かける回数は、5年前と比べてどうになりましたか。

選択肢	回答数	構成比
①増えた	14	7.4%
②やや増えた	29	15.3%
③変わらない	66	34.9%
④やや減った	36	19.0%
⑤減った	44	23.3%
無回答	0	0.0%
合計	189	100.0%



(5) 休日に、中心市街地に出かける回数は、5年前と比べてどうになりましたか。

選択肢	回答数	構成比
①増えた	12	6.3%
②やや増えた	32	16.9%
③変わらない	61	32.3%
④やや減った	41	21.7%
⑤減った	43	22.8%
無回答	0	0.0%
合計	189	100.0%



- ・ (4)、(5)の①と②の各合計 (A) はそれぞれ 22.7%、23.2%であり、④と⑤の各合計 (B) はそれぞれ 42.3%、44.5%である。
A から B を差し引いた値は、それぞれ△19.6 ポイント、△21.3 ポイントであり、5年前と比べると来街機会が減少している様子が見える。

6. 今後の取組

新たに策定した3期計画では、中心市街地を取り巻く環境や地域の現状分析、地域住民のニーズ等を踏まえ、主に商業面、観光面での課題の解決に取り組むこととし、本市中心市街地が目指す都市像を「観光・商業・交流によるにぎわいあふれる次代のまちづくり」と定め、2つの基本方針を設定し、各種事業を実施する。なお、実施にあたっては、これまでの取組による効果の持続にも留意し、PDCAサイクルを継続する。

基本方針①：「個性と魅力に磨きをかけてにぎわいあふれるまちづくり」

中央町、千日町で進捗している市街地再開発事業などにより、魅力ある商業施設を整備し、多様な都市機能のさらなる充実を図る。

また、空き店舗等の再生を担う人材や起業意欲のある人材の育成により、空き店舗の減少や街なかへの出店・創業を促す取組を進める。さらに、商店街の賑わい創出を牽引する繁盛店の育成や商店街等による独自のアイデアや創意工夫を生かした商店街の活性化を図るために実施するイベント等により、活気あふれる商店街づくりを促進し、まち全体の集客力を高める。

そのほか、鹿児島駅周辺地区の整備による交通結節機能の強化や市電・市バスのバリアフリー化など、公共交通利用者の利便性向上を図り、来街しやすく気軽にまち歩きを楽しめる交通環境を整備する。

基本方針②：「国内外から選ばれる魅力ある観光地づくり」

中心市街地は、歴史的・文化的資源を有し、世界文化遺産や桜島・錦江湾ジオパークにも近接するなど、豊かな地域資源に恵まれており、これらを生かしたイベントの開催や鶴丸城楼門建設などの観光拠点の整備等により、観光のさらなる魅力向上を図るとともに、来街しやすく気軽にまち歩きを楽しめるよう、交通アクセスや観光案内機能、多言語対応の強化により、受入体制の充実を図るなど、宿泊観光客や来街者の滞在時間の増加による観光消費の拡大につながるよう官民一体となって取り組む。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
街なかのにぎわい創出と回遊性の向上	歩行者通行量 (人/日)	165,664 (H24)	171,000 (H29)	156,110 (H29)	H29.11	c
都市型観光の振興	年間入込観光客数 (千人)	7,762 (H23)	8,100 (H29)	7,981 (H28)	H28 (H29はH30.8 頃確定)	B
商業・業務機能の集積促進	第三次産業従業者数 (人)	62,939 (H21)	64,000 (H29)	61,500 (H29推計)	H29	c

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

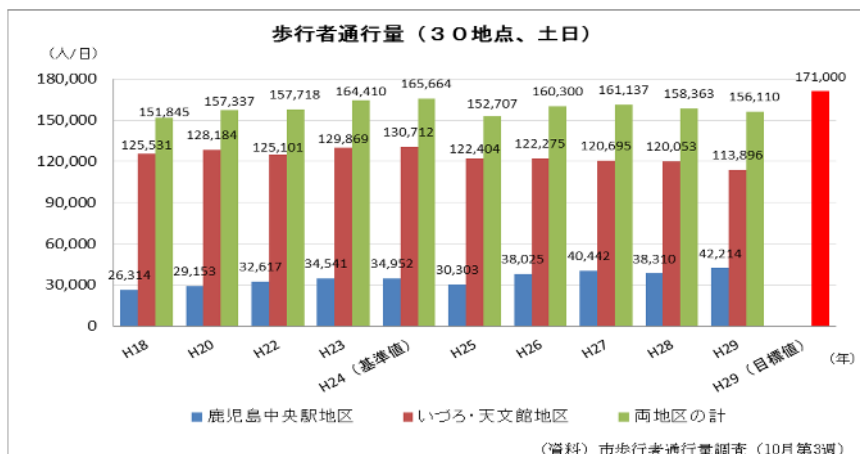
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「歩行者・自転車通行量（30地点、土日）」※目標設定の考え方基本計画 P58～P62 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人/日)
H24	165,664 (基準年値)
H25	152,707
H26	160,300
H27	161,137
H28	158,363
H29	156,110
H29	171,000 (目標値)

※調査手法：歩行者通行量調査

※調査月：毎年10月第3週土日

(※H29は2度の台風接近により、調査を2度延期して11月に実施。)

※調査主体：鹿児島市

※調査対象：中心市街地30地点の歩行者及び自転車等の軽車両通行者（土日平均）

2. 目標達成の状況【c】

歩行者通行量については、平成29年は、台風の接近に伴い2回延期し調査を実施したことから、参考値扱いではあるが、156,110人/日と基準値を下回り、計画期間中においても基準値を上回ることがなかった。

これまで実施してきた外国人観光客の誘客強化や各種イベント等の取組により、年間入込観光客数は増加したほか、5年前と比べて中心市街地の商業面・観光面での魅力は向上したと答えた市民の割合はそれぞれ半数を超えるなど、一定の活性化が図られている。一方、中心市街地外の大型商業施設の増加やネット通販の影響などにより、中心市街地における商業の集積度合いは相対的に低下し、市民の来街機会も減少している。

地区別の傾向として、いづろ・天文館地区では、基準年の24年から5年連続減少し、29年は12万人台を割り込み18年以降で最も低い数字となり、さらに厳しさが増している。東千石町12番街区整備事業の進捗が当初見込みよりも遅れているものの、25年度には天文館公園がリニューアルしたほか、26年度に川の上部空間を利用した加治屋町回遊空間の整備が進むなど、公共空間が着実に整備された。一方、天文館シネマパラダイスと周辺商店街等が相互協力により、にぎわいづくりに努めているものの、利用者数が当初の想定に達しておらず、事業効果は見込みを下回っている。

鹿児島中央駅地区では、29年が最も高い数字となった。中央町19・20番街区市街地再開発事業の進捗が当初見込みよりも遅れているものの、アミュプラザ鹿児島において、商業施設及び立体駐車場を増築したことやJ T跡地に鹿児島市立病院、上荒田の杜公園、交通局局舎・電車施設

が整備されるなど、都市機能の充実が図られた。

中心市街地の来街者を対象に実施したアンケート調査では、当日訪れる地点（複数回答）に、アミュプラザ鹿児島・中央駅東口周辺を選択した人が4割（43.6%）を超えた。一方、中心市街地の5年前と比べてにぎわい（人通りや活気）に関しては、3地区のうち、唯一いづろ・天文館地区で「元気がなくなってきた」、「どちらかといえば元気がなくなってきた」の合計（35.9%）が「活気が増している」、「どちらかといえば活気が増している」の合計（33.6%）を上回る（2.3ポイント）など、地区による違いがみられた。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 中央町19・20番街区市街地再開発事業（中央町19・20番街区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） H26年度～H30年度
事業開始・完了時期	H24年度～H32年度【実施中】
事業概要	鹿児島中央駅の駅前という立地条件を生かし、中央町19・20番街区を一体的に活用して、商業・業務・公益施設、共同住宅、駐車場を備えた再開発ビルを整備。
目標値・最新値	【目標値】1,634人/日 【最新値】—
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	事業の進捗が当初見込みよりも遅れたことにより、2期計画期間中に事業が完了せず、想定した事業効果の発現には至らなかったが、再開発事業の検討を契機に、官民連携し、エリアマネジメントに取り組んだことで、地区の商店街や事業者等様々な活動主体による活性化の動きが広がりをみせている。
計画終了後の状況（事業効果）	32年度の事業完了に向けて既存建築物の解体等を進めている。
事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。

②. 中央町1番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島の増床など）（九州旅客鉄道株式会社）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	H24年度～H26年度【済】
事業概要	鹿児島中央駅の駅ビルという立地を生かし、中心市街地内の核店舗の一つとして大きな集客機能を有するアミュプラザ鹿児島において、商業施設及び立体駐車場を増築。
目標値・最新値	【目標値】1,232人/日 【最新値】1,973人/日
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	事業の実施により、アミュプラザ鹿児島への来館者数が増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	事業終了後も引き続き本館のリニューアルを実施するなど、商業機能の充実により、街なかのにぎわい創出に寄与している。
事業の今後について	実施済み

③. 東千石町12番街区整備事業（岩崎産業株式会社、財団法人岩崎育英文化財団）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	H26年度～【実施中】
事業概要	いづろ・天文館地区において、電車通りに接する立地を生かして、小売・飲食の商業機能と郷土出身の偉人や画家の書画を展示する美術館や多目的広場を併設する複合施設を整備。
目標値・最新値	【目標値】1,606人/日 【最新値】—
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	建築費や物価の高騰など経済環境の影響もあり、事業の進捗が当初見込みよりも遅れたため、2期計画期間中に事業が完了せず、想定した事業効果の発現には至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	34年度の事業完了に向けて、街区内の関係権利者との協議等を進めている。
事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。

④. 鹿児島市立美術館施設整備事業（鹿児島市）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	H24年度～H28年度【済】
事業概要	市立美術館の建物・機械・電気機器等の機能更新を行うとともに、ミュージアムショップや前庭を活用したオープンカフェ等を設置。
目標値・最新値	【目標値】72人/日 【最新値】50人/日
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	オープンカフェ及びミュージアムショップのオープンにより、歴史・文化ゾーンの魅力向上が図られたものの、最新値は目標値を下回った。
計画終了後の状況（事業効果）	当初見込んでいた効果は得られなかったものの、29年度の美術館入館者数は4年振りに15万人を超えたほか、美術館や芸術をさらに身近に感じられる空間が創出されたことで、オープンカフェの利用状況も好調に推移している。
事業の今後について	実施済み

⑤. 天文館シネマパラダイスと周辺商店街連携事業（株式会社天文館、周辺商店街）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	H24年度～【実施中】
事業概要	商店街等と映画館の相互協力により、いづろ・天文館地区への来街者に対して、映画鑑賞チケットの半券を活用した「半券バリュー」などのサービスを提供するほか、毎月10日のテンパラデーにあわせ、周辺商店街において、映画観賞者の駐車場料金無料の時間延長や各種イベント等を連携して実施。
目標値・最新値	【目標値】1,480人/日 【最新値】784人/日
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	29年度の天文館シネマパラダイスの利用者数は14万3千人と前年度比約17%減であり、利用者数が予想を下回っていることなどが影響している。

計画終了後の状況（事業効果）	施設前の歩行者通行量は下げ止まっており、施設オープン前の 23 年度と比べても約 1.8 倍に増えているなど、周辺商店街と連携した取り組み等により施設周辺のにぎわい創出に寄与している。
事業の今後について	3 期計画において、引き続き事業に取り組む。

⑥. 街なか空き店舗活用事業（鹿児島市）

支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（鹿児島市都心部地区（第 2 期）））H23 年度～H27 年度 ②中心市街地活性化ソフト事業 H28 年度～H29 年度
事業開始・完了時期	H18 年度～H29 年度【済】
事業概要	商店街等が空き店舗を活用してテナントミックスやチャレンジショップを行い、新たな魅力を有する店舗を出店させる取組に対して、家賃補助等の助成を行う。
目標値・最新値	【目標値】104 人/日 【最新値】99 人/日
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	5 年間で 11 店舗が開業したことで、空き店舗減少につながるなど、ほぼ見込とおりの効果が得られた。
計画終了後の状況（事業効果）	開業店舗の定着に課題もあったものの、周辺のにぎわい向上に繋がるなど、空き店舗対策として一定の効果を果たした。
事業の今後について	実施済み。なお、今後は、「街なかりノベーション推進事業」を実施するなど、空き店舗等の再生を図っていく。

⑦. 鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業（公園・地域生活基盤施設）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（鹿児島駅周辺地区）） H26 年度～H28 年度
事業開始・完了時期	H23 年度～H28 年度【済】
事業概要	鹿児島駅周辺の低未利用地である旧国鉄用地（浜町 1 番 5）に公園、広場、駐車場を整備。
目標値・最新値	【目標値】— 【最新値】67 人/日
達成状況	計画通りに事業を完了し、歩行者通行量の増加に寄与している。
達成した（出来なかった）理由	28 年 10 月に「かんまちあ」（上町ふれあい広場、上町の杜公園）として供用開始後、各種イベントの開催等により、上町・ウォーターフロント地区の交流の促進、地域のにぎわい創出につながった。
計画終了後の状況（事業効果）	28 年 10 月に屋根付きイベント広場や芝生広場、遊具などを整備し、「かんまちあ」（上町ふれあい広場、上町の杜公園）として供用開始し、各種イベント等で活用されているほか、市民・観光客の憩いの場として親しまれている。
事業の今後について	実施済み

⑧. 【平成 28 年度追加】千日町 1・4 番街区市街地再開発事業（千日町 1・4 番街区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） H28 年度～H32 年度
事業開始・完了時期	H28 年度～H33 年度【実施中】
事業概要	いづろ・天文館地区の千日町 1・4 番街区において、電車通りに面し、バス停留所やアーケード入口に隣接する立地性を生かし、物販・飲食店舗、ホテル、

	オフィス等を備えた再開発ビルを整備。
目標値・最新値	【目標値】— 【最新値】歩行者通行量の増加に資する事業であるが、2期計画期間中は、事業未完了のため具体的な数値把握は困難である。
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	再開発事業を契機に、近隣のアーケード設置計画が進行するなど、街なかの回遊性向上に向けた取組が進んでいる。
計画終了後の状況（事業効果）	29年度は再開発組合が設立され、実施設計や権利変換計画案の作成に着手した。
事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。

⑨. 【平成28年度追加】市立病院跡地緑地整備事業（鹿児島市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市公園・緑地等事業） H29年度
事業開始・完了時期	H28年度～【実施中】
事業概要	市立病院移転後の跡地（旧本館等跡地）において、近接する甲突川左岸緑地との連続性を生み出し、中心市街地の回遊性の向上に資する新たな潤いの拠点となる緑地を整備。
目標値・最新値	【目標値】— 【最新値】歩行者通行量の増加に資する事業であるが、2期計画期間中は、事業未完了のため具体的な数値把握は困難である。
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	緑地整備に先立ち、甲突川左岸緑地（高麗橋～甲突橋間）の整備工事等を行い、回遊性の向上を図った。なお、2期計画掲載事業の大河ドラマ「西郷どん」プロジェクト推進等事業と連携し、29年度は、大河ドラマ館用地として活用され、観光客をはじめ中心市街地への来街者の増加に寄与している。
計画終了後の状況（事業効果）	新たな緑化拠点（都市の杜）整備に向け、29年度に基本計画（素案）に係るパブリックコメント手続を実施し、基本計画の策定、基本設計等を行った。
事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。

⑩. 【平成28年度追加】鶴丸城楼門建設事業（鶴丸城御楼門建設協議会、鹿児島県）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	H27年度～H31年度【実施中】
事業概要	明治6年（1873年）に焼失した鶴丸城本丸の大手門である御楼門や、楼門と連なり城郭を構成する重要な要素である御角櫓を建設し、歴史、文化、建築技術の継承とともに新たな観光拠点とする事業。
目標値・最新値	【目標値】— 【最新値】歩行者通行量の増加に資する事業であるが、2期計画期間中は、事業未完了のため具体的な数値把握は困難である。
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	民間が主導する新たな官民連携のモデルの一つとなっており、周辺環境整備に向けた動きが進んでいる。
計画終了後の状況（事業効果）	29年度末現在、鶴丸城楼門建設に係る工事発注、御角櫓建設に係る基本設計等を行っている。
事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。

⑪. 【平成28年度追加】鹿児島銀行新本店ビル建設事業（株鹿児島銀行）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	H27年度～H31年度【実施中】
事業概要	鹿児島銀行本店ビルを建替え、市内に分散している業務機能等を集約し金融サービスの一層の充実を図るとともに、同ビル内に商業施設を整備。
目標値・最新値	【目標値】— 【最新値】歩行者通行量の増加に資する事業であるが、2期計画期間中は、事業未完了のため具体的な数値把握は困難である。
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	当事業を契機に、近隣のアーケード設置計画が進行するなど、街なかの回遊性向上に向けた取組が進んでいる。
計画終了後の状況（事業効果）	29年度は、銀行・商業がマッチングした新たな本店ビルの建設工事に着工している。
事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。

⑫. 【平成26年度追加】コミュニティサイクル運営事業（鹿児島市）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	H27年度～【実施中】
事業概要	複数のサイクルポート（自転車貸出拠点）を配置し、どのサイクルポートでも貸出・返却ができるコミュニティサイクルを実施
目標値・最新値	【目標値】— 【最新値】90人/日
達成状況	計画通りに事業を完了し、歩行者通行量の増加に寄与している。
達成した（出来なかった）理由	市民や観光客の機動性の向上につながり、歩行者通行量の増加に一定の効果をもたらしている。
計画終了後の状況（事業効果）	利用者数が45万人を超えるなど、着実に増加しており、まちなかにおける市民や観光客等の移動手段として定着し、回遊性の向上、都市型観光の振興に寄与した。
事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。

4. 今後について

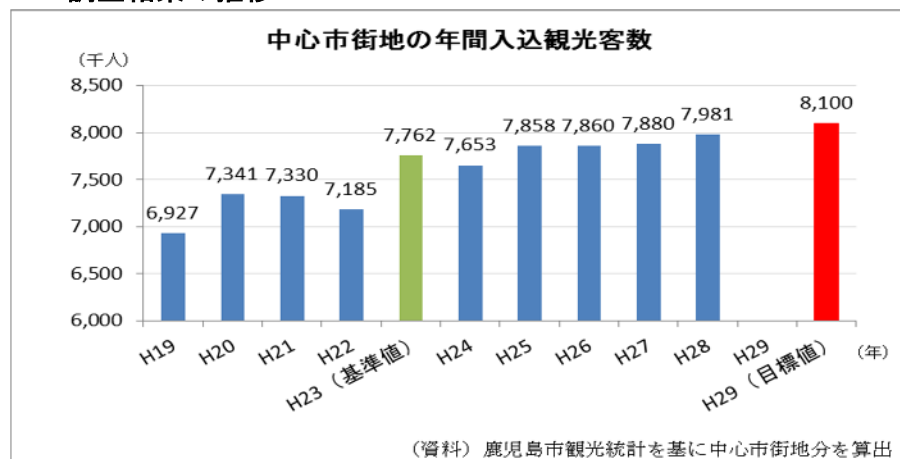
1期及び2期計画においては、街なかのにぎわいや回遊性の状況を把握するため、歩行者通行量を目標指標に設定したが、1年のうち2日間の定点調査により把握していたため、天候やイベントの有無に数値が左右されるといった面があった。

3期計画では、都市像「観光・商業・交流によるにぎわいあふれる次代のまちづくり」に向けて、「個性と魅力に磨きをかけてにぎわいあふれるまちづくり」と「国内外から選ばれる魅力ある観光地づくり」の2つの方針のもと、各種事業に取り組むこととしている。2期計画期間中に完了しなかった中央町19・20番街区市街地再開発事業や千日町1・4番街区市街地再開発事業などに引き続き取り組むとともに、街なかの魅力創出や気軽に移動できる環境づくりなど、歩行者通行量の増加に資する取組を今後も推進していく。そのため、3期計画では、「空き店舗数」、

「宿泊観光客数」という2つの目標指標を補完する参考指標として設定し、検証していくこととする。

「中心市街地の年間入込観光客数」※目標設定の考え方基本計画 P63～P67 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：千人)
H23	7,762 (基準年値)
H24	7,653
H25	7,858
H26	7,860
H27	7,880
H28	7,981
H29	8,100 (目標値)

※調査手法：鹿児島市観光統計を基に中心市街地分を算出

※調査月：前年1月～12月分

※調査主体：鹿児島市

※調査対象：鉄道、バス、自家用車、船舶等の各種交通機関を利用した観光客

2. 目標達成の状況【B】

平成28年の中心市街地の年間入込観光客数は、798万1千人と前年に比べ、10万1千人増(1.3%増)、23年の基準値に比べ21万9千人増(2.8%増)であった。

民間団体による観光イベント創出支援事業を活用した新規イベントの開催や天文館ミリオネーション、鹿児島マラソンなど大型イベントを計画期間中に新規事業として追加したことをはじめ、年間を通じて行われる多彩なイベント開催によるにぎわい創出効果などにより、年間入込観光客数は4年連続で増加したと考えられる。

また、市全体の観光動向として、九州新幹線全線開業効果が維持されていることや、上海線・香港線の増便、クルーズ船の寄港回数の増加などにより、入込観光客数は増加しており、このことも中心市街地にプラスの影響を与えている。

事業効果として、アミュプラザ鹿児島の増床による効果が当初見込みを上回っていることに加え、引き続き大型イベントの開催や外国人観光客の受入対策等にも取り組むことで、30年8月に集計予定の29年の数値は、目標達成可能と見込んでいる。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

①. 中央町19・20番街区市街地再開発事業(中央町19・20番街区市街地再開発組合)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等) H26年度～H30年度
事業開始・完了時期	H24年度～H32年度【実施中】
事業概要	鹿児島中央駅の駅前という立地条件を生かし、中央町19・20番街区を一体的に活用して、商業・業務・公益施設、共同住宅、駐車場を備えた再開発ビルを整備。

目標値・最新値	【目標値】6.5万人 【最新値】—
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	事業の進捗が当初見込みよりも遅れたことにより、2期計画期間中に事業が完了せず、想定した効果の発現には至らなかったが、再開発事業の検討を契機に、官民連携し、エリアマネジメントに取り組んだことで、地区の商店街や事業者等様々な活動主体による活性化の動きが広がりをみせている。
計画終了後の状況（事業効果）	32年度の事業完了に向けて既存建築物の解体等を進めている。
事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。

②. 中央町1番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島島の増床など）（九州旅客鉄道株式会社）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	H24年度～H26年度【済】
事業概要	鹿児島中央駅の駅ビルという立地を生かし、中心市街地内の核店舗の一つとして大きな集客機能を有するアミュプラザ鹿児島において、商業施設及び立体駐車場を増築。
目標値・最新値	【目標値】24.3万人 【最新値】42.9万人
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	事業の実施により、商業機能の集積促進が図られ、来館者数が増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	事業終了後も引き続き本館のリニューアルを実施するなど、商業機能の充実により、街なかのにぎわい創出に寄与している。
事業の今後について	実施済み

③. 東千石町12番街区整備事業（岩崎産業株式会社、財団法人岩崎育英文化財団）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	H26年度～【実施中】
事業概要	いづろ・天文館地区において、電車通りに接する立地を生かして、小売・飲食の商業機能と郷土出身の偉人や画家の書画を展示する美術館や多目的広場を併設する複合施設を整備。
目標値・最新値	【目標値】14.3万人 【最新値】—
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	建築費や物価の高騰など経済環境の影響もあり、事業の進捗が当初見込みよりも遅れたため、2期計画期間中に事業が完了せず、想定した事業効果の発現には至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	34年度の事業完了に向けて、街区内の関係権利者との協議等を進めている。
事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。

④. 鹿児島市立美術館施設整備事業（鹿児島市）

支援措置名及び支援期間	なし
-------------	----

事業開始・完了時期	H24年度～H28年度【済】
事業概要	市立美術館の建物・機械・電気機器等の機能更新を行うとともに、ミュージアムショップや前庭を活用したオープンカフェ等を設置。
目標値・最新値	【目標値】0.3万人 【最新値】0.2万人
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	オープンカフェ及びミュージアムショップのオープンにより、歴史・文化ゾーンの魅力向上が図られた。
計画終了後の状況（事業効果）	当初見込んでいた効果は得られなかったものの、29年度の美術館入館者数は4年振りに15万人を超えたほか、美術館や芸術をさらに身近に感じられる空間が創出されたことで、オープンカフェの利用状況も好調に推移している。
事業の今後について	実施済み

⑤. 【平成28年度追加】千日町1・4番街区市街地再開発事業（千日町1・4番街区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） H28年度～H32年度
事業開始・完了時期	H28年度～H33年度【実施中】
事業概要	いづろ・天文館地区の千日町1・4番街区において、電車通りに面し、バス停留所やアーケード入口に隣接する立地性を生かし、物販・飲食店舗、ホテル、オフィス等を備えた再開発ビルを整備。
目標値・最新値	【目標値】— 【最新値】年間入込観光客数の増加に資する事業であるが、2期計画期間中は、事業未完了のため具体的な数値把握は困難である。
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	再開発事業を契機に、近隣のアーケード設置計画が進行するなど、街なかの回遊性向上に向けた取組が進んでいる。
計画終了後の状況（事業効果）	29年度は再開発組合が設立され、実施設計や権利変換計画案の作成に着手した。
事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。

⑥. 【平成25年度追加】薩摩維新ふるさと博開催事業（薩摩維新ふるさと博実行委員会）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 H26年度～H28年度
事業開始・完了時期	H26年度～H28年度【済】
事業概要	明治維新当時の衣装に身を包んだキャストによるおもてなしやお芝居等幕末・維新期の薩摩を感じられるイベントの実施
目標値・最新値	【目標値】— 【最新値】1.1万人
達成状況	計画通りに事業を完了し、年間入込観光客数の増加に寄与している。
達成した（出来なかった）理由	明治維新を肌で感じてもらう多彩なイベントの実施により、毎年多くの来場者でにぎわった。
計画終了後の状況（事業効果）	29年度から事業の発展的継承に伴い、明治維新150周年事業として、“維新のふるさと鹿児島”を国内外に広く印象付けられるようなイベント等を開催している。

事業の今後について	実施済み
⑦. 【平成25年度追加】錦江湾潮風フェスタ開催事業（錦江湾潮風フェスタ実行委員会）	
支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 H26年度～H29年度
事業開始・完了時期	H26年度～【実施中】
事業概要	波静かな錦江湾や活火山桜島を目前に臨むウォーターフロントパークをメイン会場に多くの市民・県民・観光客が直接参加・体験できるイベントの開催。
目標値・最新値	【目標値】— 【最新値】0.7万人
達成状況	計画通りに事業を実施し、年間入込観光客数の増加に寄与している。
達成した（出来なかった）理由	26、28年度は、台風の影響による中止となったが、29年度は、県内外から約3万8千人の来場者を集め、入込観光客数の増加が図られた。
計画終了後の状況（事業効果）	多彩なステージイベントや鹿児島島の食を楽しめる飲食ブース、大規模なフリーマーケット、体験型イベントなどにより“海のまち”鹿児島島の魅力を発信し、中心市街地における回遊性の向上、都市型観光の振興に寄与している。
事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。
⑧. 【平成26年度追加】天文館ミリオネーション開催事業（天文館ミリオネーション実行委員会）	
支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 H27年度～H29年度
事業開始・完了時期	H27年度～【実施中】
事業概要	中心市街地で冬の季節に約100万球のLED電球で彩る大規模なイルミネーションで光の空間を創り出すイベントを開催。
目標値・最新値	【目標値】— 【最新値】3.5万人
達成状況	計画通りに事業を実施し、年間入込観光客数の増加に寄与している。
達成した（出来なかった）理由	29年度は、県内外から約20万人に及ぶ来場者を集め、入込観光客数の増加が図られた。
計画終了後の状況（事業効果）	25年度にリニューアルオープンした天文館公園を活用したイベントの開催により、冬季の魅力創出が図られ、街なかのにぎわい創出と都市型観光の振興に寄与している。
事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。
⑨. 【平成26年度追加】鹿児島マラソン開催事業（鹿児島マラソン実行委員会）	
支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 H27年度～H29年度
事業開始・完了時期	H27年度～【実施中】
事業概要	桜島・錦江湾ジオパークや明治維新の史跡、市電軌道敷緑化等の都市景観など、鹿児島島の魅力を体感できるマラソン大会の開催。
目標値・最新値	【目標値】— 【最新値】2.5万人
達成状況	計画通りに事業を実施し、年間入込観光客数の増加に寄与している。
達成した（出来なかった）理由	29年度は県内外から約14万人に及ぶ参加者や来場者を集め、入込観光客数の増加が図られた。

計画終了後の状況（事業効果）	史跡や景観など本市の魅力を感じることができるマラソン大会の開催により、冬季の魅力創出が図られ、街なかのにぎわい創出と都市型観光・滞在型観光の振興に寄与している。
事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。

⑩. 【平成28年度追加】鶴丸城楼門建設事業（鶴丸城御楼門建設協議会、鹿児島県）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	H27年度～H31年度【実施中】
事業概要	明治6年（1873年）に焼失した鶴丸城本丸の大手門である御楼門や、楼門と連なり城郭を構成する重要な要素である御角櫓を建設し、歴史、文化、建築技術の継承とともに新たな観光拠点とする事業。
目標値・最新値	【目標値】— 【最新値】歩行者通行量の増加に資する事業であるが、2期計画期間中は、事業未完了のため具体的な数値把握は困難である。
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	民間が主導する新たな官民連携のモデルの一つとなっており、周辺環境整備に向けた動きが進んでいる。
計画終了後の状況（事業効果）	29年度末現在、鶴丸城楼門建設に係る工事発注、御角櫓建設に係る基本設計等を行っている。
事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。

4.今後について

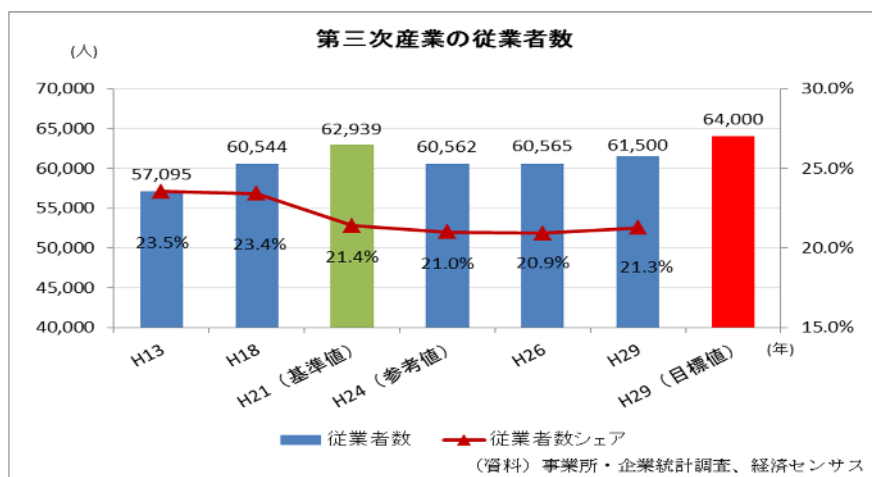
今後、市全体でさらなる人口減少が見込まれ、地域経済への影響が懸念される中、観光客をさらに増加させ、観光消費の拡大につなげる必要があるが、観光客が滞在するための機能・取組がまだ十分ではない。

このようなことから、3期計画では、基本方針を「国内外から選ばれる魅力ある観光地づくり」とし、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客、受入体制の充実を進めることとしている。2期計画期間中に完了しなかった中央町19・20番街区市街地再開発事業や鶴丸城楼門建設事業等に引き続き取り組むとともに、平成30年の明治維新150周年や大河ドラマ「西郷どん」放送など、絶好の機会を捉え、本市の歴史・文化を感じられるイベントの開催や受入体制の充実など、観光客等の滞在時間の増加による観光消費の拡大につながるよう取り組んでいく。

そのため、3期計画では、より経済効果を生み出す宿泊観光客数を指標として設定するが、入込観光客数の動向も注視しながら、検証していくこととする。

「第三次産業従業者数」※目標設定の考え方基本計画 P68～P71 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H21	62,939 (基準年値)
H24	60,562 (参考値)
H26	60,565
H29	61,500
H29	64,000 (目標値)

- ※調査手法：経済センサス
- ※調査主体：総務省統計局
- ※調査対象：中心市街地における第三次産業の従業者数

2. 目標達成の状況【c】

第三次産業従業者数については、29年の推計値は61,500人と減少傾向は下げ止まり、増加に転じたものの、基準値を下回った。

都市型産業振興事業による企業立地の効果や、2期計画に位置付けた新市立病院の移転開院、交通局局舎・電車施設の区域外からの移転に伴う新施設整備、アミュプラザ鹿児島を増床などによる事業効果があったものの、中央町19・20番街区市街地再開発事業及び東千石町12番街区整備事業の進捗が当初見込みよりも遅れたほか、街なか空き店舗活用事業の事業効果も見込みを下回った。

雇用環境に関しては、鹿児島公共職業安定所管内の有効求人倍率は、堅調に推移しているものの、本市中心市街地に集積する商業・飲食・サービス業については、求人に求職者が集まらない状況にある。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 中央町19・20番街区市街地再開発事業（中央町19・20番街区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） H26年度～H30年度
事業開始・完了時期	H24年度～H32年度【実施中】
事業概要	鹿児島中央駅の駅前という立地条件を生かし、中央町19・20番街区を一体的に活用して、商業・業務・公益施設、共同住宅、駐車場を備えた再開発ビルを整備。
目標値・最新値	【目標値】203人 【最新値】—
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	事業の進捗が当初見込みよりも遅れたことにより、2期計画期間中に事業が完了せず、想定した事業効果の発現には至らなかったが、再開発事業の検討を契機に、官民連携し、エリアマネジメントに取り組んだことで、地区の商店街や

	事業者等様々な活動主体による活性化の動きが広がりをみせている。
計画終了後の状況（事業効果）	32年度の事業完了に向けて既存建築物の解体等を進めている。
事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。

②. 中央町1番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島増床など）（九州旅客鉄道株式会社）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	H24年度～H26年度【済】
事業概要	鹿児島中央駅の駅ビルという立地を生かし、中心市街地内の核店舗の一つとして大きな集客機能を有するアミュプラザ鹿児島において、商業施設及び立体駐車場を増築。
目標値・最新値	【目標値】264人 【最新値】251人
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	26年度にアミュプラザ鹿児島プレミアム館が増床オープンしたことなどにより、従業者数が増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	事業終了後も引き続き本館のリニューアルを実施するなど、商業機能の充実により、街なかのにぎわい創出に寄与している。
事業の今後について	実施済み

③. 東千石町12番街区整備事業（岩崎産業株式会社、財団法人岩崎育英文化財団）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	H26年度～【実施中】
事業概要	いづろ・天文館地区において、電車通りに接する立地を生かして、小売・飲食の商業機能と郷土出身の偉人や画家の書画を展示する美術館や多目的広場を併設する複合施設を整備。
目標値・最新値	【目標値】115人 【最新値】—
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	建築費や物価の高騰など経済環境の影響もあり、事業の進捗が当初見込みよりも遅れたため、2期計画期間中に事業が完了せず、想定した事業効果の発現には至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	34年度の事業完了に向けて、街区内の関係権利者との協議等を進めている。
事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。

④. 街なか空き店舗活用事業（鹿児島市）

支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（鹿児島市都心部地区（第2期））） H23年度～H27年度 ②中心市街地活性化ソフト事業 H28年度～H29年度
事業開始・完了時期	H18年度～H29年度【済】

事業概要	商店街等が空き店舗を活用してテナントミックスやチャレンジショップを行い、新たな魅力を有する店舗を出店させる取組に対して、家賃補助等の助成を行う。
目標値・最新値	【目標値】79人 【最新値】40人
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	5年間で11店舗が開業したことで、空き店舗減少につながったものの、最新値は目標値を下回った。
計画終了後の状況（事業効果）	開業店舗の定着に課題もあったものの、周辺のにぎわい向上に繋がるなど、空き店舗対策として一定の効果を果たした。
事業の今後について	実施済み なお、今後は、「街なかりノバージョン推進事業」を実施するなど、空き店舗等の再生を図っていく。

⑤. 【平成28年度追加】千日町1・4番街区市街地再開発事業（千日町1・4番街区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） H28年度～H32年度
事業開始・完了時期	H28年度～H33年度【実施中】
事業概要	いづろ・天文館地区の千日町1・4番街区において、電車通りに面し、バス停留所やアーケード入口に隣接する立地性を生かし、物販・飲食店舗、ホテル、オフィス等を備えた再開発ビルを整備。
目標値・最新値	【目標値】— 【最新値】第三次産業従業者数の増加に資する事業であるが、2期計画期間中は、事業未完了のため具体的な数値把握は困難である。
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	再開発事業を契機に、近隣のアーケード設置計画が進行するなど、街なかの回遊性向上に向けた取組が進んでいる。事業完了後は、当初想定した第三次産業従業者数の増加に寄与するものと考えている。
計画終了後の状況（事業効果）	29年度は再開発組合が設立され、実施設計や権利変換計画案の作成に着手した。再開発ビルの整備により商業・サービス機能が強化され、交流人口拡大によるにぎわい創出に寄与するものと考えられる。
事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。

⑥. 都市型産業振興事業（鹿児島市）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	H11年度～【実施中】
事業概要	ソフトプラザかごしまを活用した情報関連産業の育成・支援を行うとともに、本市の都市機能の集積を生かした企業立地の推進に取り組む。
目標値・最新値	【目標値】— 【最新値】928人
達成状況	計画通りに事業を実施し、第三次産業従業者数の増加に寄与している。
達成した（出来なかった）理由	計画期間中、中心市街地への立地について計24件の協定を締結（内、ソフトプラザかごしま：6社）した。事業の実施により、第三次産業従業者数は約930人増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	大型コールセンターや事務処理センターなどの企業立地の推進により、業務機能の集積が図られ、雇用の創出に寄与している。

事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。
⑦. 鹿児島市立病院建設事業（鹿児島市）	
支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（鹿児島中央駅地区）） H19年度～H26年度
事業開始・完了時期	H19年度～H26年度【済】
事業概要	市民が24時間安心して生活できる医療機能を備え、高度で質の高い医療を提供し、市民の生命と健康を守る病院を建設。
目標値・最新値	【目標値】— 【最新値】150人
達成状況	計画通りに事業を完了し、第三次産業従業者数の増加に寄与している。
達成した（出来なかった）理由	JT跡地に市立病院が移転開院したことに伴い、医師や医療技術職員が増員され、第三次産業従業者数の増加につながった。
計画終了後の状況（事業効果）	移転新築による施設の整備、診療科目の充実などにより、市民福祉の向上、中心市街地への業務機能・都市機能の集積に寄与している。
事業の今後について	実施済み
⑧. 交通局電車施設整備事業（鹿児島市）	
支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市・地域交通戦略推進事業） H23年度～H26年度
事業開始・完了時期	H19年度～H26年度【済】
事業概要	本市の重要な公共交通機関である市営電車の運行拠点施設等を中心市街地を代表するいづろ・天文館と鹿児島中央駅の延長上であるJT跡地に整備し、車両基地、設備の改良等により機能の拡充を図り、LRT車両等の効率的・効果的なメンテナンスと運行ができる体制を整える。
目標値・最新値	【目標値】— 【最新値】201人
達成状況	計画通りに事業を完了し、第三次産業従業者数の増加に寄与している。
達成した（出来なかった）理由	区域外からの移転に伴う新施設整備により、第三次産業従業者数の増につながった。
計画終了後の状況（事業効果）	新施設の整備により従業者数が増加した。また、資料展示室を活用した見学コースを設けたほか、電車運転体験イベント等を実施するなど、来街者の増に向けた取組も推進している。
事業の今後について	実施済み
⑨. 【平成28年度追加】鹿児島銀行新店ビル建設事業（株鹿児島銀行）	
支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	H27年度～H31年度【実施中】
事業概要	鹿児島銀行本店ビルを建替え、市内に分散している業務機能等を集約し金融サービスの一層の充実を図るとともに、同ビル内に商業施設を整備。
目標値・最新値	【目標値】— 【最新値】第三次産業従業者数の増加に資する事業であるが、2期計画期間中は、事業未完了のため具体的な数値把握は困難である。
達成状況	目標未達成

達成した（出来なかった）理由	当事業を契機に、近隣のアーケード設置計画が進行するなど、街なかの回遊性向上に向けた取組が進んでいる。事業完了後は、当初想定した第三次産業従業者数の増加に寄与するものと考えている。
計画終了後の状況（事業効果）	29年度は、銀行・商業がマッチングした新たな本店ビルの建設工事に着工している。
事業の今後について	3期計画において、引き続き事業に取り組む。

4.今後について

中心市街地に多く集積する小売業、飲食・宿泊業、サービス業などの第三次産業全体の振興を図ることは、中心市街地の活性化を図るうえで重要な取組である。

2期計画期間内に完了しなかった中央町19・20番街区市街地再開発事業、千日町1・4番街区市街地再開発事業等に引き続き取り組むとともに、今後とも、新規創業者の育成支援や企業立地の推進など、中心市街地の最大の魅力である商業機能や多くの市民、観光客を受け入れ、もてなす飲食・宿泊業などのサービス機能の充実を図るとともに、働く場としての業務機能の集積を図ることで、第三次産業従業者数の増加に向けた取組を推進する。

なお、3期計画においても、第三次産業従業者数の増加に向けては、経済センサスの推移等を把握しながら取り組んでいくこととする。